



**第83号**  
岡山市北区祇園866  
特別養護老人ホーム  
**旭川敬老園**  
発行責任者 森 繁樹  
電話(086)275-4349



高齢者介護はどこに向かうのか？

園長 森 繁樹

記憶にまだ新しいことだと思いますが、この九月に川崎の高齢者介護施設で不可解な転落事故や虐待事件が続いていたことが大きく報道されました。また、同一法人系列の東京や大阪の高齢者介護施設でも職員による虐待があつたことが報じられました。こうした事件が起きた時に、どこの介護施設でも同じようなことをしているのではないかと国民の多くが疑いをかけるのではないかと考えてしまいます。介護現場の苦労を身近に見ていているだけに、そうした誤解が拡がりかねない現実を残念に思います。

私自身、現場で高齢者介護の仕事に携わるようになつて二十年が過ぎました。確かに、昔から言葉遣いや態度に問題がある職員はいましたが、命にも関わるような暴力的行為といつたことは、以前には全く考えられませんでした。やはり、こうしたことが起きる背景には、「金儲け」を前提とした介護事業者を介護保険制度が認めている現実があるからだと思います。要介護高齢者のように本来は社会的に弱い立場にある者を対象とした「福祉」の仕事において、株式による配当までを当然視した積極的な民営化を進めた、いわば「影」の部分といえるでしょう。このままでは、介護保険制度自体が国民からの信頼を失つてしまふのではな

いでしようか。

さて、第三次安倍改造内閣では、その政策の大きな柱の一つに「介護離職ゼロ」を目指すことが掲げられました。最初にこの見出しを見たとき、どうとう介護保険制度の崩壊を防ぐために現場職員の待遇改善を図り、介護職場の離職者をなくす政策を大々的に始めるのか？とちよつと驚きました。しかし本当の意味は、さらなる介護政策の充実を図り、国民が介護を理由に離職することなくしていきたいというものです。しかし、意地悪な見方をすれば、それではまた悪徳を含めた介護事業者を増やすだけにならないでしようか。

現実に起きている高齢者虐待等の問題を考えれば、今や、問題はサービスの量的な確保以上にサービスの質的な向上が重要です。そのためには、専門的知識・技術を有する人材確保こそが求められます。なぜならば、良質な人材を確保していく対策は、その効果が表れるまでに五年、十年といった長い年月を必要とする長期的な政策課題となるのです。したがって、「介護施策の充実」という総説は賛成ですが、それでただ事業者を増やした結果、虐待事件等も続発し、ますます国民の不安も募つた、といった本末転倒の事態を招かないよう、介護政策全体に対しても国民的な関心を高めていく必要もあると思います。

## 行事予定

11月11日  
喫茶(ケーキ作り)

12月16日  
家族会年末大掃除・忘年会

※誕生日に合わせて、入居者誕生会を開催しております。ご家族の皆様のご参加お待ちしております。  
※その他に書道・華道・手芸クラブ・音楽療法は午前、絵画クラブ・映画上映は午後となっております。

各クラブ活動等にご参加いただける場合はスタッフまでお問い合わせください。



ショートステイでは、涼しくなってきたので散歩にでかけ、季節を感じていただきながら、ご利用者様と一緒に過ごす時間を大切にしています。左側の写真ですが、ご本人が書いた手紙をポストに出しに行つた時の写真です。もう一枚の写真は食後の食器洗いをしてくださっている時の写真です。ご利用者様にいつも声をかけていただき、またお手伝いをしてもらひ助けていただいています。ご自宅での生活スタイルをショートステイご利用中でも少しでも継続していただき、またゆづくりくつろいで過ごしていただけたう心がけています。

## ショートステイ通信

## ひのきしん（天理教奉仕活動）

五月二十九日と九月三日に、今年も天理教の皆様に「ひのきしん」として清掃奉仕活動に来園いただきました。春・秋、それぞれ六十名を超える方にご参加いただきました。各居室やリビング等のエアコンと換気扇フィルターを外し、掃除機を使ってホコリを取り除いていただきました。また、各居室やリビングの窓・床・洗面台周囲も掃除していただきました。天理教の皆様のご協力があり、快適な設備・住環境が保てています。ありがとうございました。



## 家族会清掃奉仕活動

七月十九日、旭川荘家族等連絡協議会による夏まつり前の清掃活動が行われました。今年も早朝より会場となるグラウンドにお集まりいただき、旭川敬老園家族会からは二十名の皆様に除草作業にご協力いただきました。作業終了後は、地域交流ホールにおいてご家族の方が集まり、お互いの情報交換をしながら親睦を深めるなごやかなひとときとなりました。

## 編集後記

十月に入り気候も涼しくなり秋らしくなつてきました。今号では、四月からの行事や出来事を中心に記事にしました。日頃の園での様子を少しでもお伝えできれば幸いです。



この度、旭川荘創立六十周年を記念し、「悠久の庭」を開設しました。開設にあたり、旭川敬老園家族会から二十万円のご寄附をいただきました。また、個別に多くの入居者ご家族の方からご寄附いただきました。ありがとうございました。

「悠久の庭」は、旭川荘創立六十年の節目に当たり、旭川荘の歴史、先人の歩みを振り返り、将来に思いを致す場として開設しました。場所は、旭川療育園と旭川学園の間にあります。

## 「悠久の庭」開設募金

## 夏祭り



七月二十三日に「第三十五回夏まつり旭川荘」が開催されました。天候が心配されましたが、午前中には雨も上がり無事に開催できました。今年は創立六十周年ということで、例年より百発多い六百発の花火が盛大に上がり、敬老園のベランダからも歓声が上がっていました。沢山のご利用者ご家族、地域の方々が集まり、アトラクションや夜店なども大いに盛り上りました。旭川荘が六十周年を迎えることができたのは、地域の方をはじめ、ご利用者ご家族の皆様のお力添えがあつたからこそだということを感じました。

## 麺パーティ



初夏の風を感じる頃、七月と八月の二回にわたり、夏らしい麺メニューを考え行事を企画しました。いつもと違う雰囲気と普段会うことの少ない入居者様同士で楽しんでいただくことができました。会場には、提灯を飾り、目の前で焼きそばを焼くなど祭りらしい雰囲気を味わっていただけます。工夫しました。目でも楽しんでいたくため、デザートは皆さんのか前でスイカを切り分けることで喜んで食べていただきました。日常では見られない笑顔をたくさん見ることができます。今後も、楽しい行事を企画していきたいと思います。

## 特集テーマ「笑顔」



五月十六日に「第四十七回開園記念行事」が行われました。恒例の模擬店は盛況で、たくさんの入居者様とそのご家族が、和菓子やケーキといったスイーツなどを楽しそうに選んでおられました。午後からのアトラクションでは、竜の口・銭太鼓の皆様による踊りが披露され、入居者様は華やかな舞を皆様笑顔と手拍子でご覧になつていました。入居者様、ご家族様、地域の皆様おかげで今年も無事開園記念行事を開催することができたことを職員一同心より感謝申し上げます。

## 藤原孝子様 祝百歳



## 誕生日会

今年度より毎月、同じ生まれ月の方々が集まって誕生会を開いています。歌をうたつたり、ケーキを食べたり、写真を撮つたりと賑やかに行つています。笑顔も多く見られ、皆さん楽ししそうに時間を過ごされています。普段、あまり食欲がない方も、ケーキはあつとつた」と嬉しそうな表情をしてくださいます。胃ろうの方には、プレゼントを用意し、一緒に祝いしています。ご家族の方へご案内をお送りしております。ご参加お待ちしています。